

「ひょうご」公共交通10カ年計画(2021-2030)「いっしょに

兵庫県 土木部 交通政策課

1 計画策定の目的

本県では、多様な地域特性や交通課題に対応するため、平成18年3月に「ひょうご公共交通10カ年計画」を策定、その後1回の改定を踏まえ、県内の公共交通の維持・活性化に向けた取り組みを進めてきました。

しかしながら、高齢者の運転免許返納の増加による日常生活における移動手段確保の重要性の高まりやAI、IoT等の技術革新による新技術の台頭、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」の改正等の社会情勢の変化を踏まえ、令和3年3月に本県の公共交通政策の指針となる本計画を改定しました。

2 計画の概要

(1) 公共交通の現状と課題

本県における公共交通の現状と課題を把握するため、社会情勢や公共交通利用状況等のデータ分析に加え、市町や交通事業者へのヒアリングを実施しました。その結果、①公共交通への公的負担の増加、②地方部における生活圏の広域化、③高

齢者など最寄りの駅やバス停までの端末移動困難者の増加、④新技術の活用等が課題として浮かび上がりました。

(2) 目指すべき方向性(理念)と目標・基本方針

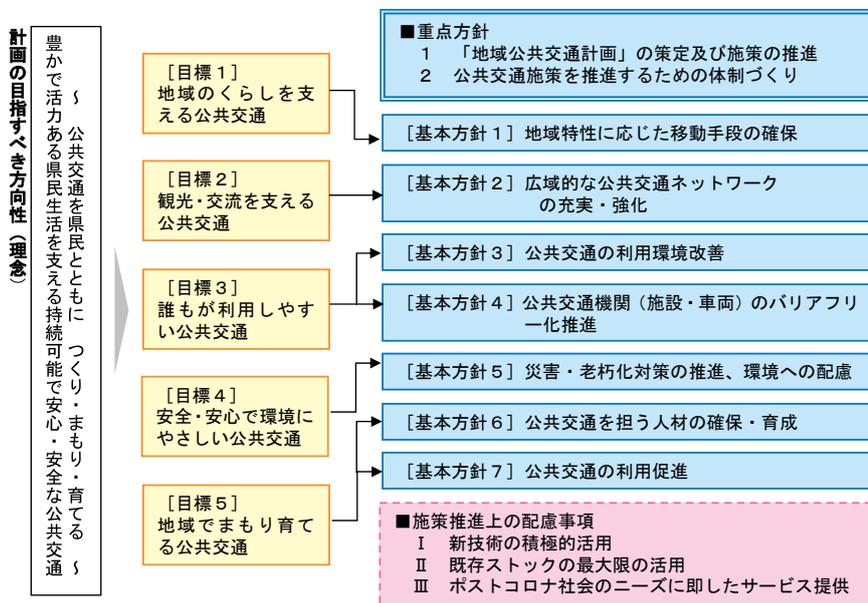
現状の問題点や課題と、関連する県の計画を踏まえ、本計画の目指すべき方向性(理念)と、この目指すべき方向性を実現するための5つの分野の目標を設定しています。また、目標を達成するための基本方針及び施策は、2つの重点方針と7つの基本方針に基づく50の具体施策で構成しています。重点方針では、市町が主体となった計画策定と計画推進体制の構築を推進することとしています。また、施策を推進する上で、「新技術の積極的活用」、「既存ストックの最大限の活用」、「ポストコロナ社会のニーズに即したサービス提供」の3点に配慮することとしています(図1)。

(3) 計画の推進方策

計画の策定から、施策の実施、評価、改善までを繰り返すPDCAサイクルにより、着実に実効性のある施策展開を図ります。また、計画の中間年にあたる令和7年度には、中間評価を行い、必

要に応じ計画の見直しを行うこととしています。

図1. 計画の目標と重点方針及び基本方針



3 主な具体施策と取組事例の紹介

以下に50の具体施策から6件の取組事例をご紹介します。

〔施策①〕地域公共交通計画の策定

市町が中心となり、地域公共交通活性化再生法に基づく地域公共交通計画をまちづくり等の関連施策と連携して策定することを推進しています。令和3年度は猪名川町、稲美町、上郡町等で策定され、令和4年度は西宮市をはじめ5市において策定が予定されています。令和5年度以降も、市町において策定が進められる予定です。

〔施策⑦〕車両サイズの最適化等による交通手段の見直し

地域の実情に応じた路線バスの運行形態の見直し、コミュニティバスや自家用有償旅客運送等の活用、及びデマンド型交通の導入等の組合せにより地域公共交通の最適化を図っています。西脇市においては、令和3年4月に市役所移転を契機に、



写真1. 車両サイズの最適化、デマンド交通の導入による再編事例（西脇市）



写真2. バス会社とJA、生産者による青果物の貨客混載事例（三田市）



写真3. 城下町を周遊するグリーンスローモビリティの本格運行（丹波篠山市）

コミュニティバス路線の集約化、車両サイズの最適化、及び運行形態の変更を行い公共交通ネットワークの再編を実施しています（写真1）。

〔施策⑧〕他分野との連携による移動手段の確保

貨客混載など新たな収入源の確保による生産性の向上や、スクールバス、福祉輸送等と連携した移動サービスの提供により、持続的な移動手段の確保を図っています。これまで県内において、路線バスやコミュニティバスを活用した貨客混載による野菜配送や移動販売が実施されています（写真2）。

〔施策⑮〕グリーンスローモビリティの導入モデルの検討

道路幅の狭い地域や傾斜地等における端末移動手段として、小型、電動、時速20km未満で4人以上が乗車可能なグリーンスローモビリティの導入に向けた実証運行を推進しています。これまで県内においては、観光地や住宅地を中心に実証実験が実施されています。令和4年10月には、丹波篠

山市で本格運行が開始されました（写真3）。

〔施策⑳〕パーク&ライド駐車場・駐輪場の整備

公共交通の利用環境の改善として、パーク&ライド駐車場やサイクル&バスライド用駐輪場の整備を推進しています。これまで県内において整備が進められている他、令和4年度には、姫路市やたつの市において、バス停留所に近接する施設の既存駐輪場をサイクル&バスライド用駐輪場として活用するなど、既存ストックを活用した取組も進められています。

〔施策㉑〕経路検索サービスの充実

コミュニティバスの運行情報を経路検索サイトやMaasアプリなどで検索可能にすることにより公共交通の利便性を向上させるため、運行情報のデータ整備、オープンデータ化に取り組んでいます。令和4年3月で県内全市町のコミュニティバスのデータ整備が完了し、兵庫県ホームページにおいてオープンデータとして公開しています。

今後ダイヤ改正等に伴う更新を実施していきます。

4 おわりに

公共交通は、通学や通院、買い物等の生活を支える地域の重要なインフラであり、県では、今後とも、ひょうご公共交通10カ年計画の理念に基づき、国、県、市町、交通事業者等が連携・協働し、持続可能で安全・安心な公共交通の維持、確保に向けて取り組んでまいります。